



(4) 事業の内容

※名称・日時・場所・参加人数・内容・収益など具体的に記入してください。

※活動の写真や資料があれば、添付してください。

①名称：パート指導・合奏指導・合同練習

②開催日時及び実施中学校：

鳥取中学校	合同練習	7月19日	(阪南吹奏楽団員15名参加)
	合奏指導	7月30日	(阪南吹奏楽団員15名参加)
		7月31日	(寺島氏個人指導)

貝掛中学校	合同練習	7月5日	(阪南吹奏楽団員10名参加)
	合奏指導	7月18日	(寺島氏個人指導)

鳥取東中学校	合同練習	7月6日	(阪南吹奏楽団員12名参加)
	合奏指導)	7月11日	(寺島氏個人指導)
		7月21日	(寺島氏個人指導)
		2026年1月18日	(寺島氏個人指導)

③開催場所：市内中学校吹奏楽部の校舎内

④対象者： 中学校吹奏楽部員と阪南吹奏楽団員

⑤参加人数：

鳥取中学校	各中学校の吹奏楽部員・阪南吹奏楽団の寺島氏及び阪南吹奏楽団15名
貝掛中学校	各中学校の吹奏楽部員・阪南吹奏楽団の寺島氏及び阪南吹奏楽団10名程度
鳥取東中学校	各中学校の吹奏楽部員・阪南吹奏楽団の寺島氏及び阪南吹奏楽団12名程度

⑥事業の内容：各楽器の基本練習および合奏練習

⑦収 益：ボランティア活動につき収益はなし

⑧その他：なし

(5) 事業に参加したのは想定した人たちでしたか。参加した人たちの反応はどのようなものでしたか。

※その人たちや組織に何らかの変容があれば、それも交えて記入してください。

各中学校にて、吹奏楽コンクールを控え、コンクール曲の精度を高めるための練習、楽器演奏の基礎テクニックをレクチャーいただいた。中学校の吹奏楽部員たちは、高い専門スキルを持つ阪南吹奏楽団の方々の指導を真剣に聴き、熱心に取り組んでいた。

(6) 協働で事業を進めるにあたり、工夫した点があれば、記入してください。

実際に隣で演奏して、生徒さんたちと経験豊富な団員との違いを体験してもらった。

## 2. 協働事業の評価

- 下記の評価項目について、それぞれの立場から評価してください。評価基準は5段階としてください。
  - ・大変よくできた（5点）
  - ・よくできた（4点）
  - ・できた（3点）
  - ・あまりできなかった（2点）
  - ・できなかった（1点）
  - ・評価項目として適当でない（N）
- ※「N」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

### (1) 評価

	評価項目		評価点		
			行政	団体	平均
事業実施前	1	実施する事業の課題・背景や目的を両者で確認・共有しましたか。	5	5	5
	2	事業の到達目標を協議して設定しましたか。	5	5	5
	3	事業の実施に際して、計画書や工程表の作成等、計画的な実施のため協議・工夫しましたか。	4	4	4
	4	事業を進めるための役割分担や責任を協議して決めましたか。	5	5	5
事業実施中	5	進捗管理、必要な情報共有をしましたか。	5	5	5
	6	状況の変化に応じて、協議しながら、柔軟な対応ができましたか。	4	4	4
	7	お互いの得意分野や人材・情報を活かし、協力しながら、事業を進めることができましたか。	5	5	5
事業実施後	8	設定した目標は達成できましたか。	5	5	5
	9	協働で事業に取り組んだことで、単独で実施するより、成果を上げることができましたか。	5	5	5
	10	責任の所在や役割分担は適切でしたか。	5	5	5
	11	事業には、当事者、関係者をはじめ、多様な人たちの参加を促すことができましたか。	5	5	5
	12	予算は妥当でしたか。	N	N	N
	13	課題の解決策や今後の方針について、協議を行いましたか。	5	5	5
	14	協働事業に取り組むことによって、組織に何らかの変化をもたらしましたか。	5	5	5

「N（評価項目として適当でない）」を選択した場合は、その理由を記入してください。

番号	理由
12	本来の目的であるコンサートがこの予算だと開催が不可能であるため。

(2) 協働して良かったこと、団体や行政の単独ではなく協働で実施したことによりどのようなメリットがあったかなどを記入してください。

団体 にとって	生徒たちは演奏精度を高めるためのテクニックを得ることができ、コンクールでは金賞を受賞された。阪南吹奏楽団は生徒たちに、より阪南吹奏楽団を身近に感じてもらう事により、卒業後も吹奏楽を続けてもらえる人材育成ができたと思う。
行政 にとって	子どもたちにとって、専門家の奏でる音色を間近で聴き、奏法を直接学べるという、非常に貴重な機会となっている。阪南吹奏楽団の方々のご指導により、子どもたちは自信を持って演奏することができ、コンクールで金賞を受賞するなど、レッスンの成果も着実に現れている。
市民 にとって	

(3) 協働して課題だと感じたこと、翌年度も事業実施する場合はその改善のために具体的にどのように取り組むかを記入してください。

団体 にとって	合同練習を年度はじめに予め決めておく方が良かったと思った。
行政 にとって	昨年度末に、学校への実施日の希望調査票について、阪南吹奏楽団の方と協議して見直した。しかし、年度当初に希望調査票をすぐに配付できず、配布時期が遅くなったため、レッスンが7月に集中してしまったと思われる。次年度は学校への希望調査を年度当初に行うようにする。 また、新入生の入部者確定の頃や冬の時期なども有効に活用し、計画的、継続的にご指導いただけるよう、学校と連絡調整を行っていきたい。
市民 にとって	

(4) 今後の具体的な展開 ※団体と事業担当課が話し合い、記載してください。

■今後も協働事業として実施する (□提案事業継続 ■提案事業以外)

□終了する

□市が単独で実施する

□団体が単独で実施する

□その他 ( )

上記の回答とした理由を記載してください。

(『協働事業として実施』を選択された場合は、提案事業(以外)とする理由も含めて記載してください。)

本市民協働事業は、子どもたちにとって、専門家の生の演奏や音色を間近で聴き、専門的な奏法を直接学べるという、非常に貴重な機会であり、教育効果も高い活動であると考えます。  
また、阪南吹奏楽団の方々の演奏に向ける姿勢に接することにより、音楽を通じた世代間交流や文化活動に対する知識を育むよい機会にもなる。

(5) 実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体の自主財源確保の方法などを含めた具体的な事業展開の内容などを記入してください。

中学生の頃から吹奏楽や楽器に触れる事により、生涯を通じて演奏を続けようとする人材を育成したいと考えている。

また、阪南吹奏楽団の団員の方々に指導していただく事で、中学校の吹奏楽部員がスキルアップしている事を実感しており、本事業については継続したいと考えている。

ただ本来の目的は市内中学校との合同演奏会であり、予算額0円では、ホールでのコンサートの開催は不可能である。行政機関やホールなどの協賛事業でないと演奏会を開催するのは厳しいと考える。

(6) その他

--

